東映任侠映画十年史

（その一）

任侠映画と一口に言っても、いわゆる股旅時代劇から現代アクションまでそのジャンルは市広いが、映画史において一時代を画した東映任侠路線においては、時代を明治・大正及び昭和初期に限定した、いわゆる着流しものがその大半を占める。従って今回のオールナイトはすべてこのジャンルにしぼった。

戦後における着流しものハシリは、佐分利信監督による「人生劇場」（東映・52年）であるが、主人公は青成瓢吉であって、侠客飛車角は（これを演じたのが片岡千恵蔵なのだ！）ワキに追いやられていた。従って着流しの侠客をヒーローとした任侠路線は、63年の沢島忠監督による「人生劇場・飛車角」によって確立したとみる。もっとも、着流し任侠ものゝ先陣がその前題に封切られた「暴力街」（小林恒夫監督・高倉健主演）である事は、あまり知られていない。

「…飛車角」のヒットにより、「人生劇場・続飛車角」が同年に作られたが、もう原作を離れたオリジナルになっていた。（飛車角が吉良常より先に死ぬのだ。）また、同年の石井輝男監督による「昭和侠客伝」も、正統派任侠映画として、初期の代表作と言えるだろう。

ここまでは単発的だが、翌年の小沢茂弘による「博徒」から、本格的にシリーズとして連作されはじめる。（このシリーズは、〝博奕打ち〟シリーズへと発展してゆく。）また、高倉健主の長期ヒットシリーズ「日本侠客伝」も、この年64年に第一作が公開された。

そして翌65年、東映任侠路線は、大量生産の時代に入る。〝関東〟シリーズ、〝網走番外地〟シリーズ、〝昭和残侠伝〟シリーズ等が、いずれもこの年スタートした。また、任侠映画史上のベストワン「明治侠客伝・三代目襲名」もこの年公開されている。

66年、〝兄弟仁義〟、〝男の勝負〟各シリーズ、スタート。この頃になると、日活・松竹等も類似した任侠ものゝ量産に入り、任侠路線は確実に日本映画の一潮流となる。また、バリエーションとして、チンピラを主人公とした傑作「893愚連隊」、〝七人の侍〟〝プロフェッショナル〟任侠篇「博徒七人」なる珍作も登場した。股旅映画最後の秀作「吉翔時次郎」、遊侠一匹」もこの年の作品。

67年、東映任侠路線は安定した強味を見せ、佐藤純弥・深作欣二が「組織暴力」「解散式」でローテーションに加わる。「博奕打ち」オー作（小沢茂弘）公開。

68年正月、それまで無数のB級任侠映画を撮り続けていた山下耕作が、笠原和夫脚本による大傑作「博奕打ち・総長賭場」を放って第一線に躍り出た。三島由紀夫が、「ギリシャ古典悲劇を思わせる。」と絶賛したこの作品は、〝山下自身の個性をも超えた〟（瀧辺武信氏）東映任侠路線の頂点として、今なお高い評価が与えられている。

そして東映任侠路線は、ようやく無数のバリエーションを出し尽した末に、〝極道〟〝不良番長〟〝緋牡丹博徒〟等の変形シリーズもこの年開始し、同時にパターンとしての任侠映画は、翌年の「昭和残侠伝・唐獅子仁義」等をはじめとして、美学にまで高められたマンネリズム（悪い意味でなく）道及の道を歩みはじめるのである。

【6月9日号に続く】

時よ時節は変れと変まよ

人生劇場

飛車角

東映東京撮影所

企画……岡田茂
同……亀田耕司
同……吉田達
原作……尾崎士郎
脚色……直居欽哉
監督……沢島忠
撮影……宮井泰良
音楽……佐藤勝
美術……進藤観吉
照明……川崎保之助
録音……大谷政雄
スチル……田中敬文
編集……田中修

配役

飛車角……鶴田浩二
おとよ……佐久間良子
吉良常……月形龍之介
宮川磯……高倉健
青成瓢吉……梅宮辰夫
小金……加藤嘉
寺男……村田英雄
おいてけ堀の熊吉……曽根晴美
白鉄……久地明
松造……徳大寺伸
文……沢彰謙
宗良平……水島道太郎
由松……浦路洋子

（東映スコープ・カラー）

やくざ映画に、なぜ惚れる…！

博奕打ち

総長賭場

東映京都撮影所

企画……俊藤浩滋
同……植木茂一
脚本……笠原和夫
監督……山下耕作
撮影……山岸長輔
音楽……林光
美術……宮田次郎
照明……井上孝二
録音……所輝夫
スチル……杉本昭三
編集……宮本信太郎

配役

中井信次郎……鶴田浩二
松田鉄男……若山富三郎
石戸年平……名和宏
仙波多三郎……金子信雄
つや子……桜町弘子
弘江……藤純子
実……香川秀人
久蔵……服部三千代
俊子……岡田千代
小林音吉……三上真一郎
長尾清……大木実
青木義作……中村錦司
水谷岩吉……曽根晴美
野口逸……泊田晋一
北川常次……小田部譲治
沢田……高並功
河島義介……佐々木孝丸

パート II

8月9日(土)

侠客列伝

日本女侠伝 侠客義者

緋牡丹博徒 お竜参上

博奕打ち いのち札

関東緋桜一家

唐獅子仁義

東映京都撮影所

企画……俊藤浩滋
同……吉田達
脚本……笠原和夫
監督……山下耕作
撮影……山岸長輔
音楽……林光
美術……宮田次郎
照明……井上孝二
録音……所輝夫
スチル……杉本昭三
編集……宮本信太郎

配役

黒明……川谷拓三
鶴吉……小松方正
スチル……遠藤芳
柳貞……田中邦

（東映スコープ・カラー）

三代目襲名

東映京都撮影所

企画……俊藤浩滋
同……植木茂一
脚本……笠原和夫
監督……山下耕作
撮影……宮井泰良
音楽……林光
美術……宮田次郎
照明……井上孝二
録音……所輝夫
スチル……杉本昭三
編集……宮本信太郎

配役

高倉……鶴田浩二
久蔵……明石潮
甲本……若山富三郎
お時……藤純子
お竜……高倉健
お柳……長谷川待子
たかみ……藤純子
朱次……南風洋子
三吉……三田佳子
十場政……佐野浅夫
たしま……ミヤコ蝶々
ゴンボの家……清水元
白玉の紋……島田敏一郎
イカラの弟……五十嵐敏夫
常盤屋伊勢屋五人……南部彰三
常盤屋……柳天寺仲
仙太郎……加藤治
常盤屋……佐々木松之丞
……桑田……
……柳……
……三田……
……柳……
……南……
……佐……
…………
…………
……